

## 会 議 結 果

|       |  |
|-------|--|
| 会 議 名 | 第 6 回西尾市一般廃棄物中間処理施設建設専門委員会   |
| 日 時   | 令和 5 年 5 月 8 日（月）午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分   |
| 場 所   | 西尾市クリーンセンター 研修室  |
| 委 員   | 松田 仁樹（委員長）、辻 喜礦（副委員長）、小口 達夫、小島 義弘、<br>新井 正徳、高須 耕、鳥居 靖久   |
| 出 席 者 | <p><b>【事務局】</b><br/>環境業務課（渡辺課長、手嶋主幹、古居課長補佐、小池主査、細尾主査）</p> <p><b>【廃棄物処理施設整備基本計画策定業務受託事業者】</b><br/>八千代エンジニアリング株式会社（3 名）</p> <p><b>【同席者】</b><br/>岡崎市ごみ対策課及び清掃施設課（5 名）<br/>幸田町環境課（1 名）</p>   |
| 傍 聴 者 | 10 名   |
| 議 題 等 | 下記のとおり   |
| 結 果 等 | <p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>（1）事業方式の選定結果について</p> <p>・質疑応答及び意見</p> <p>（委員）DBO 方式が一番有利とのことだが、表 2 を用いて DBO 方式の特徴を具体的に説明していただきたい。DBO 方式は公共が資金調達するとのことだが、事業スキーム例の中に反映されているか。</p> <p>（事務局）資金調達は、事業スキーム例には入っていません。DBO 方式は、現施設の公設公営方式と同様に、運営事業費等の資金は市が用意します。BTO 方式は、民間が交付金、起債を除く一部資金を調達するというので、そこに違いがあります。</p> <p>（委員）DBO 方式では、SPC は建設・運営を含め事業を統括すると思うが、資金の入出をどのようにマネジメントするのか。</p> <p>（事務局）市から運営に対する委託費用を SPC に支払い、施設の各種維持管理・運転業務に関する支払が生じた場合は SPC がその費用を支払います。</p> <p>（委員）DBO 方式の方が BTO 方式よりも VFM が大きい結果だが、BTO 方式の方が企業努力等により VFM が大きくなってよい気がする。このような結果になった主な原因は何か。あと、VFM は企業の収入・支出も含めたトータルな値か、その場合 2 市 1 町から見てどの方式が一番メリットが大きいのか。</p> <p>（事務局）表 14 が分かりやすいと思いますが、DBO 方式と BTO 方式では、収入はほぼ同額です。それに対して支出額に差が出ており、運営・維持管理費相当額で差が大きくなっています。この主な理由は、BTO 方式は建設費を建設完了時に全額支払をせず、運営期間に渡って支</p> |

払います。その間、SPCが費用を負担することになるので、運転資金の借入分に差が出ます。これにより、VFMに差が生じています。

(委員) 2番目の質問はどうか。企業の損得を抜きにして2市1町だけの観点から見た場合、どの方式が一番メリットが大きいのか。

(事務局) VFMは、市側のメリットを表したものです。VFMで差が出ていることから、2市1町の財政負担を考えた場合、DBO方式が有利であると考えます。

(委員) コスト縮減率10%という数字が出ているが、10%が必ず保証されるかどうか分からない。民間企業はいつ潰れるか分からないというリスクを背負っている。リスクを背負っているから効率が悪くても公営でやる、という背景がある。このリスクをどう評価するかが入っていないので、その辺りをどうするか考えていただきたい。

(委員) 今後の課題が2項目まとめてあるが、先程言われたことも課題の中に入ると思うので、その辺りをよく考えていただきたい。ここに挙げられている課題について、具体的にどうしていけばよいか前例を調べて整理しているか。

(事務局) 「プラントメーカーをすべての事業期間において関与させる仕組み」のことかと思いますが、今後作成する要求水準書の中で、この懸念を解決する仕組みを加えることを考えています。また、先進他事例でも実施されていることを確認しています。

(委員) 縮減率10%は、どういう根拠で算出されたのか。あと、市側の期待する縮減率として5%~10%と幅を持たせ、これに対するメーカーからの回答が「特に意見なし」であったことに対して、最終的に一番大きい10%を採用した根拠は何か。

(事務局) 10%の縮減率は、内閣府作成の「PPP/PFI手法導入優先的検討規程策定の手引き」の中に示されています。今回は5%~10%の幅を持たせていますが、DBO方式の場合は6.2%という結果になりますけれど、仮に下限値5%とした場合でもDBO方式の方が有利であるという結果も得ています。

(委員) 期待値として最大の10%という数字だけ見ると、すごく安くなるように見えるが、実際はそこまで安くなるとは限らないところを汲むべきではないか。あと、DBO方式とBTO方式の違いは資金繰りとのことだが、今後の金利変動についても考慮した方がよいのではないか。

(事務局) 表13で公共と民間との借入利率の差を示したうえで、表14の支出欄のうち支払利息と運営・維持管理費相当額は、金利に差があることを前提に計算しています。

(委員) 金利変動があったとしても、公共・民間どちらの金利も並行して動くと考えれば、公共で借りる方が当然安くなる前提であるという理解でよいか。

(事務局) そのとおりです。市で借り入れる地方債の方が金利が安いので、その差を含めて計算しています。

(委員) 岡崎市は公設公営でやっているが、今回の検討結果についてどう考えるか。

(委員) 金銭的効果からDBO方式は大変有利だと思うが、住民に安心してごみ処理を任せってもらうという点で言うと、市がどこまで施設運営、運転、ごみ処理を監理できるかが懸念される。時代の流れであり致し方ないと思いつつ、不安も感じる。

(委員) 先程の発言でもあったが、公営と民営でリスクの取り方が違うと思うので、今後の課題の中にその辺をきちんとまとめ、対策として今後どのように監理していくかということが非常に重要かと思うがどうか。

(事務局) 同じように考えます。公設民営は、仕様書発注とは異なり性能発注になりますが、ごみ処理施設の性質上、従来から性能発注が行われていることと、現状も運営を民間委託していることから、公共サービスとしての差はあまり生じないと考えます。また、事業運営の監理に関しては、施設運営に長年携わっている職員の知見を生かせる体制を取っていきたいと考えています。

(委員) 自分自身は公設公営の手法に慣れているので、新鮮な気持ちで話を聞かせてもらった。DBO方式は、経済性やノウハウがあるというメリットがある反面リスクもあると思うので、そういう部分をしっかりと考えていかなければいけない。

(委員) 西尾市は、西尾市方式PFI事業がかなり揉めて契約解除になった経緯がある。1社で見積りを取って決めてしまい競争原理が働かなかったことと、市長が交代して事業見直しとなり、資金調達が止まって事業が頓挫してしまったことの2つが大きな問題であった。西尾市としては、SPCが入ってくるとそれだけで拒否反応があると思われる。ただ、今回は競争性が働くことが見込まれることと、西尾市が資金調達をするのでその面では止まらないことと、民間活用は国からも推奨されていることから、今回このような形で提案させていただいた。

(委員) 今の時代の流れも含め、色々なことを踏まえた上でしっかりと課題を整理してもらいたい。課題はまだ整理尽くされていないので、早急に整理をしてこの事業が市民目線で非常に安心安全なシステムになっていくことを望む。

(事務局) 色々なご意見をいただきましたので、それらを今後の課題として整理し、課題がクリアできるように計画を進めていきます。

## (2) 廃棄物処理施設整備基本計画(案)について

### ・質疑応答及び意見

(委員) 12頁の図4-1だが、岡崎市が広域ごみ処理施設と岡崎市中央クリーンセンターの両方に矢印が出ており、これでは分かりづらい。災害廃棄物と処理施設が事故を起こした場合の広域連携についても記載すべき。災害廃棄物の記載は少しあるが、市民や民間との連携などももう少し具体的対策について必要である。あと、委員会で出た意見が反映されていない。意見をまとめたものを付録等で残してもらいたい。

(委員) 今の要望について、図4-1のタイトルのあとに簡単な説明を付ければよいのでは。災害廃棄物は、自然災害も頻発しており市民の注目度も高いと思うので、もう少し丁寧に書き加えることができると思う。あと、これまでの委員会での発言を要約したものを巻末に載せれば、委員会で議論した内容がよく分かると思うがどうか。

(事務局) 一度検討させていただき、上手く入れ込む方法を考えます。

(委員) 資料の中に、最終処分場の残余年数について新施設ができることによりどう延命化されるかといったことは書かれているか。

(事務局) 123頁に飛灰の埋立処分についてまとめてありますが、最終処分場の延命等については記載していません。記載について検討させていただきます。

(委員) 付け加えて言うならば、47頁の表7-14にて処理方式毎に最終処分量を評価し、どの方式でも問題ないという結果であったと思うので、それについても改めて入れ込んでどうか。あと、煙突の高さは59mになったと思うが、建設予定地南側にある標高61.4mの山について

地形を考慮して影響予測予定であると 25 頁に記載があるが、標高より低い煙突が出来ることになるので、もう少し丁寧に記載したほうがよい。環境影響評価をした結果、59mでは問題ありとなった場合、計画の変更あるいは見直しも有り得るという理解でよいか。

(事務局) 煙突の高さは 59mですが、ここの地盤の標高がありますので、南側の山よりは高くなります。同時並行で進めている環境影響評価の中で、その影響も配慮して評価します。その結果により、何らかの変更が必要という結論になった場合は、要求水準書の段階で反映させていただきます。

(委員) 図 14-1 について、言葉を添えて分かりやすくすることのだが、岡崎市から岡崎市中央クリーンセンターへ向かう矢印が点線になっているのはどういう意味合いか。

(事務局) 特に深い意味合いはありません。見にくいということでしたら、もう少し違う形に直します。

(委員) 最小限のリスクで最大限の利益を、というのが基本になる。リスクをきちんと背負っていただくことが市民目線で非常に重要なので、そこを運営方式における今後の課題の中に入れ、現状からさらに良くなるということが言えるような形にしていきたい。

(事務局) はい、そのようにします。

(委員) 教育関係機関へのアンケート調査に対して、幸田町の 6 小学校も積極的に回答しているようなので、子供たちが環境問題に興味・関心を持つきっかけとしての活用を大いに期待している。

(委員) 世の中、SDGs 一色だが、若い世代のきっかけ作りになるような環境教育施設になるようにしていきたい。

(委員) 色々な意見を言ってもらって、出来るだけ反映するよう努力したつもりだが、反映できていないと思われる部分もあるようで、お詫び申し上げます。何らかの形で反映させたいと考えるので、よろしくお願ひしたい。

(委員) 建設予定地の上空にある特別高圧線を移設しないといけないという話があったかと思うが、それに関する記述がないがどうか。

(事務局) 104 頁の表 11-1 建設工事の工程にて鉄塔移設工事の項目で実施時期・概要を記載しているとともに、162 頁の表 18-1 事業全体スケジュールにも入れています。鉄塔の移設は必要だとプラントメーカーから回答を得ていますので、現在、関係機関と協議しながら鉄塔移設に向けて準備を進めている段階です。

(委員) 委員会で議論した内容を抜粋し、問題点を基本計画の中に入れ込むことになったので、それを見て次の事業者選定の段階へ進んでいくということでしょうか。

(事務局) はい。

### 3 その他

今後のスケジュールについて